

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	重粒子線治療におけるビーム飛程の不確かさの推定
	研究目的	当院で使用する重粒子線（炭素線）は、体内深部でブラッグピークと呼ばれる急峻な線量分布を描く。そのため、腫瘍に限局した照射が可能であることから、正常組織のダメージを軽減する事ができる。この様に腫瘍をピンポイントで照射する事から、ビーム停止位置（飛程）を正確に計算し治療計画を立案する必要がある。患者体内での飛程は治療計画 CT 画像より得られる CT 値および CT 値と飛程の換算テーブルを用いて計算する。本研究では、「CT 値 飛程換算」の誤差要因の 1 つと考えられる CT 値の被写体サイズ依存性に着目し研究を行う。本研究により、ビーム飛程計算の精度向上による治療精度の向上が見込まれる。本研究では、2015 年 12 月 15 日から 2017 年 12 月 14 日までに実施した治療の CT 画像を使用する。
	研究期間	西暦 2017 年 12 月 28 日 ~ 西暦 2018 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 （チェック[X]が入った項目を利用します）	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input type="checkbox"/> その他（記載して下さい） <input type="checkbox"/> 毛髪 <input type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	草野 陽介
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	物理工学科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし